

「ICTの進化による価値創造の変化」 ～本質に近づき、新たな価値の創造を！～

遠藤信博会員

(日本電気株式会社取締役会長)

企業は価値を創造して、人間社会にその価値を提供して人間社会の持続性に価値貢献する存在で、その価値が評価されて初めて企業は継続性を保つことができる。この観点から企業群が人間社会の在るべき姿、長期ビジョンを考える主体であるべき。

イノベーティブソリューションは人間社会の本質的欲求を理解し、価値創造すること。ICTの進化により、価値源泉、価値創造プロセス、価値レベルも変わり、従来にない全体最適型価値の創造が可能となる。ICTの重要な機能は、リアルタイム性、リモート性、ダイナミック性であり、価値創造ではこれらを如何に取り込むかが重要だ。ICTの進化と共に人間社会でのAIの実用性が増した。NECの顔認証は世界一の力を持ち虹彩と合わせると100億人をリアルタイムで認識可能なレベル。5Gや6Gもリモート性が重要なロボティクスに大きな役割を果たす。DXはハードウェア・ディジションからソフトウェア・ディジションへの変化であり、単なる効率化ではなく、新たな価値を作り出すこと。全体最適型の価値は1社ではできず、バリューチェーン構築がキー、企業の積極的参加が重要。

企業は、継続的な価値創造と共に、価値創造の場を継続的に提供するという役割を担っている。企業での価値創造は、人間社会の正解のない課題に対して価値を作るプロセス。正解を求める現在の受験教育では、価値創造人材は育たない。イノベーションには、多様性が必要と言われるが、日本では多様性を（＝個の主体性を重視した）育てる教育が出来ていない。企業でもジョブ型での価値創造が期待されるようになってきたが、これは正に「個」の主体性を尊重した価値創造であり、日本はこれを強く意識して、育てる教育に注力しなければならない。人間の脳の総合的な機能は18歳でピークに近づく。大学に入る前に、如何に価値創造型の能力を上げるかが、さらに重要になる。

教育はFun・Will・Effortだと思っている。Funを感じれば、必ずもっと知りたいというWillが生じ、さらに修得したいと思うとそれに伴うEffortが必要だ。全ての子ども達がFunを見つけ出せる環境を提供すると共に、Will、Effortを支える仕組みを整え、多様性を育てることが急務。Strong Will and Flexible Mindといつも社内で言っているが、強い意志と、他を尊重し違いを喜んで受け入れる力が、価値創造には重要だと思う。